

「物語編」の活動案 2

創造力を育てる授業

アクティビティの考案者：玉川大学教育学部 大谷千恵

所要時間：45 分

設定：国語学習

対象年齢：小学校中学年くらい（質問や課題を調整すれば、幅広い学年で実施可能です。）

人数：30-40 名

前提：「物語編」の活動案 1 を実施後

*連続して実施しなくても大丈夫ですが、子ども達が活動案 1 のグループを覚えていられる時期で実施してください。

到達目標：

到達目標（授業中）

- ・グループで、活発に話し合うことができる。
- ・カードの絵をヒントに、物語の並び替えができる。
- ・カードを並び替えて、元の物語とは別の物語を作ることができる。
- ・アレンジした物語を発表できる。
- ・グループで工夫した発表ができる。

長期の到達目標

- ・本に興味を持ち、図書館をよく活用するようになる。
- ・アイヌや沖縄の民話に興味を持ち、他の本も読むようになる
- ・同じグループだったクラスメイトと、休み時間などに話したり、遊んだりする姿が見られる。

下準備

- ・今回は、子ども達に馴染みのないアイヌと沖縄の物語を使用するので、グループは前回のグループのままにします（男女のいる 4-5 人組）。
- ・アイヌ、または沖縄の物語カードが、各グループに配付されるように用意します。グループの人数分の場面を選び、必要なグループの数ずつコピーしておきます。コピーは、子ども達に見やすいように拡大しておくといいです。
- ・配付する時は、1 セットずつ（グループの人数とカードの枚数は同じ）、各グループに配付します。
- ・グループで、お話を追加できるように、白紙の紙も各グループに配付できるように用意しておきます。グループメンバーの人数によって、白紙を与える数は調整してください。以下の授業では、4 人グループで設定しています。

必要なもの：黒板、アイヌと沖縄の物語カードのコピー（グループの数に応じて調整）、白紙（各グループに 2 枚）、セロテープ（各グループ用に 3cm くらいのテープを 10 枚用意し、定規などに貼っておく。6 枚の紙を 2 か所ずつテープでとめていく）

授業スタート

流れ	教師の指示	留意点など	時間
導入	あいさつ <説明> この時間の学習は、まず①グループに分かれる、②物語カードを並び替えながらお話を考える、③グループで発表する、④オリジナルのお話を読む、の順に進めていきます。 グループづくりの説明： 前回の物語グループになります。同じグループの人のところに座ってください。前と同じように、座るのが遅いグループから発表してもらいます。	①～④を「この時間のメニュー」とタイトルをつけて黒板に板書する。 先にカードを配付してはいけません。子ども達は、カードに意識が行くので注意散漫のまま説明を聞くことになります。	3 分

	早くにグループができたところは、配付されたカードが、どんなお話なのか、①カードを並び替えて、お話を考えてください、②足りない場面があれば、紙にその場面の絵を描いてください。 準備はいいかな？では、カードを配ります。	①と②を板書する。 カードと白紙（2枚）を配付。 カードは裏にしておく。 様子を見ながら、支援が必要な子どもにサポートをする。	
展開	では、まず、カードを1人ずつ表にしてください。お互いの場面を見ながら、どんなお話か考えてみましょう。そして、黒板に書いてあるように、①カードを並び替えてください。カードの並び替えをしながら、お話も考えます。見本を見せますね。 ＜サンプルを見せる＞ 黒板を見てください。ここにあるのは、日本の「サルカニ合戦」の場面ですね。もとの物語のあらすじは、どうなっていましたか？わかる人、教えてください。紙芝居のように読んでください。 (手をあげた子どもが、カードの絵を説明する) 読み聞かせ： 昔、昔、あるところにカニとサルがいました。 ① (a) の絵： サル：「カニどん、カニどん、そのおにぎりよこの柿の種を交換しないか？おいしい柿がたくさんで」と言って、サルはカニのおにぎりを食べてしまいました。 ② (b) の絵 「食べたいなあ。でも柿の実に届かないなあ…」 ③ (c) の絵 「カニどん、カニどん、おいらは取ってやるよ」と行ってサルは、柿の木にのぼります。でも、カニは、柿を自分で食べてばかり。 「サルどん、サルどん、いったいつになったら、私に柿を取ってくれるんだい？」と、カニ。 ④ (d) の絵： 「そんなに欲しけりゃ、これをやるわ」と青くて固い柿をカニに投げつけ、可哀想なカニは死んでしまいました。 はい、〇〇さん、ありがとう。 今回は、この物語をよく知らないということで、並び替えました。新しいストーリーに合わせて、絵を2枚追加しました。そうすると、こんなお話になりました。 アレンジした物語の読み聞かせ： 昔、昔、あるところにカニとサルがいました。 ① (c) の絵： 柿の木の上でサルがおいしそうに柿を食べています。	子どものあらすじを教師が補足してセリフなどを入れてあげます。 アレンジの並び替えと解釈： ①(c) 柿の木の上のサル（柿を食べてる）と木の下のカニ ②(a) カニとサルはおにぎりよ柿の種を交換する ③追加：急に大風が吹き、固い柿がカニに当たってしまう。 ④(d) 柿に当たって死んだ親カニ ⑤追加：サルが助けようとする。	7分

	欲しくなったカニは、「自分のおにぎりと交換しよう」と提案します。 ② (a) の絵： ちょうど、熟した柿を食べ終わってしまったサルは、柿の種を持って来て、カニのおにぎりとの交換することになりました。サルとカニは、一緒に水やりをして、おおきな柿の木を育てることができました。 ③ 追加の絵：急に大風が吹き、柿がカニに当たる。 ところが、ある日、大風が吹き、青くて固い柿の実を拭き落としてしまいました。 ④ (d) の絵： 柿の木が心配になって様子を見に来たカニは、可哀想に固い柿の実にあたって倒れてしまいました。 ⑤ 追加の絵：サルが助けようとする。 サルは、「だいじょうぶかー？」と、親友のカニを助けに飛んできましたが、風がつよくて、なかなか行けません。カニをたすけることができなかったサルは、カニの子どもを引き取り、自分の子どものように育てました。 (b) 柿の実を見上げるカニ 子カニは、立派に育ち、秋になると、サルが取ってくれる真っ赤な柿をたくさん食べました。こうして、カニは柿のような色になったとさ。おしまい こんな風に、白紙2枚は、みなさんが並び替えたお話がよく伝わる場面を描いててください。 準備はいいですか？では、並び替えと、お話づくりをはじめましょう。 <作業時間> <3分前になったら> そろそろ、セロテープで完成した物語の順に繋げてください。誰がどの部分のお話をするか決めます。必ず、1人1枚の絵について、お話をします。 待っているメンバーで効果音をつけてもいいですが、お話ししている人の邪魔にならないようにできるのが、上手が効果音です。	⑥ (b) 柿の実を見上げるカニ バケツで水を運ぶジェスチャーをしながら話す。 「ビュー、ビュー、ゴォー！」 「ボトボトボト....」など、効果音などもつけながら話す。 手を額にあてて、遠くを見るジェスチャーをしながら話す。 走って来るジェスチャーをしながら話す。 柿を取って食べるジェスチャーをしながら話す。 机間指導をしながら、各グループにセロテープを1つ配り、追加の絵も完成したら、順番通りに絵をセロテープで繋げるように指示してまわる。	10 分
--	--	---	-------------

	<発表> では、〇〇グループから発表してください。 (子ども達の発表を褒めて、拍手) (同様に、グループの物語を確認する。 ただし、アイヌと沖縄の物語を交互に発表させる。)	子どもの発表には、どんなところが素敵なのか、工夫されているのか具体的に褒める。 *時間内に終わらなかったグループは、次の時間に発表する時間をつくってあげてください。	15 分
ま と め	どのグループも素敵なお話ができましたね。では、オリジナルのアイヌと沖縄のお話を紹介します。アイヌは、北海道など北の方に大昔から住んでいた人達です。 オリジナルの絵本を読み聞かせする。 アイヌの物語 松谷みよこ「ちいさなオキクルミ」ほるぷ出版 どう？みんなのお話と似ているところはあった？オリジナルのお話は、どうでしたか？ じゃあ、今度は沖縄のお話を読みます。 沖縄の物語 田島征彦「とんとんみーときじむな」童心社 日本の北にも南にも、素敵なお話がありますね。 沖縄のお話に登場した木の名前はなんでしたっけ？ 子ども：ガジュマルの木ー 次の時間に、ガジュマルの木がどんな木か、見てみましょうね。図書館やインターネットで調べられる人は、調べたものを教えてください。教室の後ろの本棚にも、図書館から借りて、いくつかアイヌと沖縄の絵本を用意してますので、休み時間などに見れます。 では、できあがった、皆さんの物語を前に持ってきてください。途中のグループも持って来ててください。 (*時間内に終らないグループがあれば、具体的にどこの部分の話を作って来たらいいのか確認してから、宿題にします。) あいさつして終わります。 あいさつ	紹介するアイヌと沖縄の絵本は、子ども達が閲覧できるように、教室の本棚などにわかるように置いておくといいです。関連した絵本もいっしょに並べておくのもいいと思います。 登場人物になりきって、読み聞かせをしてください。 <フォローアップ> アレンジした物語で、発表されたものは、教室本棚近くの壁に貼っていくといいです。	10 分

フォローアップの例：

①時間内に終らないグループに宿題を出した場合：

次の時間で発表させる時間の前に、宿題ができていないか確認してあげましょう。時間内にできないグループは、「遅い」のではなく、「先生のサポートを必要としている子ども達」と考えてください。大勢の前で話すのが苦手な子どもには、皆の前で話す前に、一度、そのグループのメンバーだけを集めてリハーサルをしてあげると（良いところをたくさん褒めてください）、皆の前で発表する時の緊張が和らぐと思います。

②すぐにふざけて読んだりする子どもがいる場合：

皆から注目が集まるような効果音やジェスチャーなどをその子の出番の前に頼んでおくと、欲しい注目を先にもらえるので、変なところでふざける必要がなくなります。おふざけたがる子には、「○○くんは、皆を楽しませるのが上手だけど、本当に人を笑わせる人は、自分で笑わずに真剣にやるんだよ」「一生懸命やっているから、見ている人が面白い！って思うんだよ。」などと、アドバイスをあげておくといいかもしれません。褒めながら、良い方向にその子の特徴が出るようにしてあげると、物語も盛り上がります。

③次の授業の可能性：

この授業をきっかけに、アイヌや沖縄についての調べ学習をしても面白いと思います。あるいは、今度は完全にオリジナルの物語づくりに入っても面白いです。物語には、ポイントとなる場面がいくつかあることを復習しながら、あらすじを考えさせ、4-5 の場面を絵に描かせてから、セリフや情景などをその絵につけていくと、イメージしながら書きやすいと思います（つまり、見通しをもって書くということになります）。何もないところで書かせると、子どもは創造力が豊かなので、はじめの部分だけで話がうんと膨らんでしまいます。その膨らんだままエネルギーを維持できればいいのですが、子どもの集中力はあまり長く持たないため、途中で飽きてきてしまい、頭でっかち尻切れトンボになってしまいがちです。バランス良く、書くエネルギーを最後まで維持させるためにも、絵を書かせながら進めるといいと思います。音楽の授業などとも協力できれば、場面に合う音などを子ども達に探させてきてもいいかもしれません（あずきなどを利用して波の音などを作るなど）。

先生がワクワクする授業は、子ども達もワクワクしますので、色々なことを試してみてください。